

教師用発問サポート資料

1 使用するプリント コク×スク レベル 2-3 伝えたい事項に応じて、具体と抽象を使い分ける

2 単元の目標

(1) 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2)ア

(2) 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] 2学年 A 話すこと・聞くこと(1)イ

3 学習の流れ

【①導入】日常生活で出会う「具体と抽象」について考える。



この前、ある先生とある子の会話を聞きました。先生はある子の作文を読んで、「もっと具体的に書きなさい」と言っている様子でした。みなさんも、こういったやりとりを見聞きしたり、経験したりしたことがあるのではないのでしょうか。今日の授業では、「具体的」であることは、いつでも正しいことなのかを疑っていきこうと思います。一緒に考えていきましょう。

【②展開】個人で問題を解く（15分程度）。その後、全員で答え合わせを行う。

★10分ほどが経過したら、立ち歩いて話し合ったり、わからない部分を話し合ったりするよう助言する。

★考え方がわからない生徒には挙手をさせ、適宜助言を行う。

〈問1 助言の参考〉



ここでは、「校内宝探し大会」の目的と詳細を確認するとよいですね。「校内宝探し大会」の内容を抽象的にまとめるとどのように言えるのでしょうか。また、この「校内宝探し大会」になった経緯についても着目することで、より確かなものを選べるようになりますね。

〈問2 助言の参考〉



まず、2-1では、【 B 】の直前に、「事前にとったアンケートでは」とあるので、「イベント事前アンケート」に着目するとよいですね。



次に、2-2では、今年のイベントの目的について答えればよさそうですね。「二人の会話」によると、目的を決める際は、去年のイベントについての意見を踏まえているようです。「あなた」とヒカルの会話に着目して、今年のイベントの目的について考えてみましょう。



最後に2-3については、これまでの2-1と2-2を踏まえて考えるとよいですね。2-1と2-2の解答を簡単にまとめるとするとどれが正しい解答になるのでしょうか。

【③まとめ】 今日学習した内容を振り返る。



今日の学習では、具体と抽象について学びました。今日学習したことは、どのような場面で生かせそうですか。また、どんな力が身につきましたか。

具体的すぎて複雑なものは簡単に表現すると伝わりやすくなることもあるんですね。

異なる要素のものでも、抽象化したら一言でまとめられそうです。

相手の反応や話の必要性に応じて、具体と抽象を使い分ければ、もっと伝わる発表ができると思います。



どの考えも素晴らしいですね。具体的なことが常によいことではない、ということに気づけただけでも、今回の学習で大きな成果があったと言えそうですね。これからも自分の目的や相手の様子に応じて、「具体と抽象」を自由に行き来できるようになることを目指していきましょう。

また、物事の具体的な事例を話すときには「例えば～」、複数の具体例をまとめて抽象化して話すときには「要するに～」などの言葉を使うと、聞き手も理解しやすくなります。こういった工夫もできるようになるとよいですね。

4 指導のポイント

○【①導入】では、例えば「自分が欲しい○○を説明する」などの活動を取り入れてもよい。教師と生徒のやりとりで、教師が生徒の欲しい○○を当てることをゲーム感覚で取り入れると、学習のゴールのイメージが持ちやすくなると考えられる。

5 ほかに考えられる使用方法

○「コク×スク レベル 2-3」を単元テストとして使用し、定着度を測るために使用することもできる。その際は、【②展開】だけを取り上げて20分程度の解説の時間を設けるとよい。また、授業展開例としては次のものが考えられる。

先生たち聞いて！ 自分のオススメの○○について紹介しよう！

自分自身が一番興味のあるものについて生徒に紹介させる学習活動。自分の好きなものなので、生徒は喜んで発表するが、好きなものを自由に発表させるだけにならないように、聞き手を先生方に設定することで、相手意識をしっかりと持たせる。また、わかりやすい紹介をするためには、具体と抽象を使い分けが必要となる。適切な例を用いたり、別の例を持ち出して具体的に説明したり、抽象化してまとめることで伝わりやすくなりなど、様々な使い分けが考えられる。